

心と心のつながりを深める果物

鹿児島県出水市立大川内小学校

五年 切通 朋香

私は、三年前までスペインに住んでいた。そこで知り合ったスペイン人には、朝食にオレンジやリンゴ等フルーツを食べる習かんがあった。家庭科で学習した今だからこそ分かることだが、大事なビタミン類をとるためには最高の習かんだったのだ。わが家でもスペインに行ってから、おやつより果物を食べるようになり、家の果物カゴの中には必ず何かの果物が入っているようになった。

私は、お菓子作りが好きだ。作るときに欠かせないのが果物だ。果物を入れることで、自然のあまさが加わり、一そうおいしくなる。この間、おばあちゃんのために果物を使ったお菓子を作った。おいしそうに食べているのを見て、私はうれしくなった。いつもの給食でも、果物が出てくると、いつもよりおいしく感じる。そして、会話もはずむ。果物は、人と人とのつながりを深めてくれるんだなあと思う。

わが家では、果物の中でも、住んでいる出水市でもとれるみかんをよく食べる。地元でできたみかんは、どれも最高においしい。また、私はこの二年間、農協の農業体験に参加している。種まきと収穫の間にも色々な作業があることが分かった。そして、農家の人が収穫の時、自分たちの作った作物をほこらしそうにしている理由が分かった。それは、作物が、食べる人を幸せにできる存在であることを知っているからだ。だから、手間ひまをおしまずに、一つ一つ丁寧に、愛情こめて作物を作っているのだ。「みんな大好き！日本のくだもの」を読んで、「ああ、同じだなあ」と実感した。また、さいばい法を工夫したり品種改良をしたりして、一年中果物があるようにしてくれていることも分かった。

これからは食べるとき、その果物にどんなドラマがあるのかを想像してみたい。農家さんに感謝の気持ちをこめて、「いただきます！」